

平成29年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりの多様な学習目標や進路希望を踏まえた学習指導を実践する。</p> <p>②自ら課題を発見し、解決するための思考力・判断力・表現力等の育成ために自ら学ぶ力を育む学習活動を実践する。</p> <p>③幅広い教養と確かな学力を身につけさせ総合力の育成を図る。</p>	<p>①授業力向上に向けた授業研究の年間計画、テーマに基づき、継続的に組織的な授業改善が図れるようにする。</p> <p>②総合的な学習の時間において生徒の主体的な学びが進むようにする。</p> <p>③総合的な学習の時間の内容をより一層充実させる。</p>	<p>①職員の意識が高まるよう、生徒による授業評価や研究授業などの内容の充実を図る。</p> <p>②教員マニュアル等を作成し、それを活用することにより統一的に指導にあたり、生徒の主体的な学びの伸長を図る。</p> <p>③アカデミックキャラバン・緑高セミナー・テーマ別研修等において、生徒に確かな学力をつける講座を多く設定する。</p>	<p>①生徒による授業評価の結果などを評価の観点に活用できたか。</p> <p>②年度末に生徒に年間のまとめを書かせ、主体的な学びができたか。</p> <p>③緑高セミナーについてはアンケートにより参加状況成果を確認できたか。その他については研修報告書を活用して、幅広い教養を身につけさせられたか。</p>	<p>①生徒による授業評価で、「授業に対して意欲的に取り組んでいる」と回答した生徒が90.0%となり、生徒が主体的に授業に取り組める工夫が確認された。</p> <p>②年度末に生徒にアンケート等の振り返りを実施し、「高校生活において課題の発見と解決に向けて主体的に考え、発表するなどの協働的な学習活動により、思考力・判断力・表現力が高められた」と回答した生徒が86.5%であり、主体的な学びができたこと確認された。</p> <p>③アカデミックキャラバンにおいて「対数誕生物語」を講演していただいたところ大多数の生徒に好評で「何のために数学を学習するのか理解できた」という意見が多数を占めた。緑高セミナーについては、アンケートで、参加した全ての生徒(100%)が「とても興味深く聞くことができた」と回答し、「今後の学習に向かう新しい視野が開かれた」等の回答が多かった。</p>	<p>①すべての領域の授業が、深い学びやプログラミング教育につながるよう検討を推進していく。</p> <p>②生徒の探究活動をより深化するための支援・指導の方法を組織的に研究する。</p> <p>③生徒の知的好奇心をさらに高めるための講演等を実現する講師を同窓会等の支援を得て依頼していきたい。</p>	<p>①アンケート結果から授業改善が進んでいることがうかがえる。プログラミング教育の成果も活かしながら、主体的な学びを意識した授業を目指して取り組むことが必要である。</p> <p>②学力向上進学重点エントリー校としての真摯な様々な取り組みを評価する。</p>	<p>①授業力向上に向けた授業改善が進んでい実感できるような改善を行っている。</p> <p>②総合的な学習の時間を中心として、探究的な学習や主体的な深い学びにつながる学習も展開されている。総合学習が大事であるという共通認識を深める。</p> <p>③アカデミックキャラバンは、深い学びにつながる講演会となった。講師との綿密な打ち合わせやリハーサルを継続していきたい。</p>	<p>①日々の授業を大切にしながら、深い学びにつながる授業改善にいつそう取り組んでいく。</p> <p>②生徒の主体的な学びを育てていくための柱として、総合的な学習の時間の年間計画を総合的に見直しながら策定していく。</p> <p>③講師の選び方とテーマ設定を工夫し、講師との綿密な事前打ち合わせを行っていく。</p>
2	生徒指導 ・支援	<p>①部活動や行事を通して、生徒の論理的思考力・表現力・創造性を伸ばし、リーダーシップや企画力の向上を図る。</p> <p>②よりきめ細かな個別支援を実現することにより、生徒一人ひとりが安心した学校生活を送ることができるよう支援する。</p>	<p>①学校の教育活動を積極的に地域等へ公開するとともに、行事等の参加を促す。</p> <p>②後援組織との連携を深め、生徒の育成支援体制の充実を図る。</p>	<p>①部長会・実行委員会を通じた生徒主体の取組を推進する。既存のやり方にとらわれず、新たな発想を尊重するとともに、実現に向けた取組を計画的に行う。</p> <p>②生徒支援のために適切な情報共有や指導、対応をおこなえたか。事故発生時には適切に対処する。</p>	<p>①生徒主体の部活動、行事運営が行えたか。自由な発想の元、計画の実現に向けて取り組むことができたか。</p> <p>②生徒支援のために適切な情報共有や指導、対応がおこなえたか。事故発生時の対処は適切か。</p>	<p>①生徒主体の部活動、行事運営が行え、「魅力と特色アンケート」においても「部活動等で充実した活動ができた」と回答した生徒が87.7%となり、自由な発想の元、計画の実現に向けて取り組むことができた。</p> <p>②生徒支援のために適切な情報共有や指導、対応がおこなえた。</p>	<p>①今後も、生徒の社会性や人間性を高めるための学校行事や部活動の生徒主体の活動が実現できるための支援の方法を検討していく。</p> <p>②ケース会議の在り方や、スクールカウンセリングの活用方法の改善に努めていく。</p>	<p>①生徒主体の生徒会活動が展開されていることを評価する。授業時間確保をしながらも工夫を加えるなどして、今後も充実させることが大切である。</p> <p>②教育相談を受ける生徒に対する配慮や取り組みを評価する。</p>	<p>①文化祭や体育祭などを通して、生徒が主体的に関わることの大切さが伝わっている。生徒会活動における自主的活動の活性化をさらに推進していく。</p> <p>②生徒支援を適切に行うことができた。教育相談の運営方法を工夫していく。</p>	<p>①部活動や行事を通して、生徒の論理的思考力・表現力・創造性を育み、リーダーシップや企画力が向上するように支援していく。</p> <p>②教育相談の受付方法等を工夫する。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日実施)	総合評価(3月30日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりが目指す進路の実現に向けて、様々な支援や指導を実践する。	①生徒一人ひとりが自己の高い資質を自覚した上で、目指す進路の実現に向けて、3年間を見通した進路計画を整理し支援と指導を図る。	①3年間を見通したキャリア教育についてワークシート等の活用により生徒一人ひとりが各自の優れた資質をより発展・充実させ、自分の将来像を描くことができるよう支援と指導を行う。	①3年間を見通したキャリア教育において、ワークシート等を活用し、生徒一人ひとりに自らの高い資質をより充実させ自分の将来像を描くことができたか。	①3年間を見通したキャリアプランニングワークシートを改善し、生徒がより具体的なイメージをもってキャリアプランニングに取り組めるよう働きかけた。	①学校全体で組織的に生徒のキャリアプランニングを支援する体制づくりを早急に構築する必要がある。	①「将来、どのように社会に貢献できるか」を考えさせるキャリア教育が成果を上げている。それを活かす3年間を見通したキャリアプランニング支援を組織的に行いたい。	①学びに向かう動機づけに大きな成果が見られた。他のグループとも協力しながら3年間を見通したキャリアプランニング支援体制を構築する。	①組織的なキャリア教育の体制づくりを進め、将来の職業や生き方を考えるような指導を行っていく。
4	地域等との協働	①地域に信頼される学校づくりを推進する。 ②後援組織である三徳会・牧陵会との連携を深め、学校教育支援体制の充実を図る。	①学校の教育活動を積極的に地域等へ公開するとともに、行事等の参加を促す。 ②後援組織との連携を深め、生徒の育成支援体制の充実を図る。	①文化祭や芸術教科発表会などの行事の公開やHPを通じ、本校への理解を促す①避難訓練への参加を促し、生徒・地域との交流、協働を企てる。 ②学びの奨励基金の運用、緑高セミナーを中心とした人材などの活用を図る。	①公開行事への参加状況・アンケート調査による満足度。 ①避難訓練における地域の方の参加状況。 ②学びの奨励基金の周知・運用および支援団体の人材活用等、新たな支援体制の活用・充実について推進できたか。	①HPなどを活用し、公開行事の予定を周知する活動を行った。HP更新が簡単にできるようHPを新方式にリニューアルすることに取り組み、移行に成果を上げた。 ②学びの奨励基金の支援を9名の生徒に行い、海外での研修や国立大学での研修を体験させることができた。	①新方式のHPの優れた機能を十分に活用してさらに本校への理解を深める活動を充実させたい。 ②学びの奨励基金の支援対象・内容を再検討し、「自己の人格を磨き、能力を高める意欲的な取組」を実現していく。	①防災訓練について地域と協力して行おうとする姿勢を評価するが、日程の関係で今年度実施できなかったことは残念である。 ②「人としてどう育てるか」「将来のリーダー」を考えて教育していることを評価する。	①日程の関係で、避難訓練では地域の方々に参加してもらえなかった。来年度は何とかなしたい。 ②本校の教育活動を積極的に地域及び保護者へ公開としていくとともに、緑高セミナーへの地域から参加者を増やしていく。	①地域と連携した避難訓練実施や緑高セミナーへの地域の参加者増加を図る。新ホームページも活用していく。 ②緑のフェスティバル、緑高セミナー、文化祭等の学校行事や学びの奨励基金等において後援組織との連携強化を図る。
5	学校管理 学校運営	①全職員が参画し、組織的・機動的な学校運営体制を推進する。 ②生徒・保護者に信頼される学校を維持するために事故不祥事防止に努める。	①職員の意見交換の場としての「緑の意見交換会」を定期的実施し、全職員が参画する運営体制を活性化させる ②日常的に事故不祥事防止に努めるよう職員間の声掛けを実践する。	①興味深いテーマ設定をしたうえで職員が参加しやすい日時に「意見交換会」を実施し、意見交換を行い学校運営になるべく反映させる。 ②研修をとおして、日常的に事故不祥事防止に努めるようにする。	①半期に1～2回開催することができたか。また意見を交換し、問題意識や教育活動実践の共有が図れたか。 ②月に一度、研修を開催することができたか。職員間の声掛けを実践することができたか。	①授業時間の確保と学校行事・年間行事計画等の在り方について職員間で意見交換をし、問題意識や教育活動実践の共有が図れた。 ②「職員啓発資料」等を活用して具体的な他校での事故例なども参考に有意義な研修が行われた。	①開催時期や方法を検討し、参加者を増やしたい。 ②引き続き、事故不祥事防止に向けた研修を充実させ職員の意識の向上に努めたい。	①開催テーマや時期などを工夫することが必要である。	①職員の意見交換の場としての意見交換会を実施できた。授業時間確保と教育活動のバランスを考慮した年間行事予定策定において、出された意見は一定程度反映された。組織的な学校運営のための意識をさらに高める工夫が必要である。 ②適切な事故防止を行うことができた。	①緑の意見交換会への参加者が多くなるような検討をさらに進める。 ②高大接続も視野に入れた検討をする。定期テスト、評価、評定、調査書等において事故がなくなるようなシステム作りを検討する。